

ひきこもりの実情知って

札幌 当事者の3人 経験語る



成瀬さん（左端）ら当事者が講師となってひきこもりの実情を語った「道産こもり179大学」

ひきこもりの実情を知ってもらおうと、当事者が講師となる「道産こもり179大学」が札幌市内で開かれ、3人が自身の体験を語った。

NPO法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク（札幌）の主催で、23日に開かれた。札幌市出身の成瀬有香さん（48）＝横浜市＝は、うつ病で高校を中退後、強迫性障害が悪化し、ひきこもった。30代で病名がわかり、現在も通院している。ひきこもり者のイベント参加を機に、当事者として実名で講演するなどの活動を始めた。成瀬さんは母を1歳で亡くし、高圧的だった父

を長く拒絶していた。だが、昨年亡くなった父が、ひきこもりの支援先を探していたことや、「自分のせいで娘の人生を歪めた」と反省を語っていたことなどを知ったという。「父とコミュニケーションをもっと取ればよかった。家族や周囲と関わりを持ち、互いを尊重する対等な『対話』をしておけば人生は大きく変わった。」と振り返った。

また、会食恐怖症のある道央在住の男性（44）は、幼稚園時代から給食が食べられず苦勞した過去を告白。「完食を強要せず、病状に理解を」と訴えた。

同じく道央に住む男性（48）は自身のひきこもった経験を踏まえ、自己責任を求めがちな世の中に對し「（挫折しても）立ち上がりやすい、個人の尊厳を持てる社会であってほしい」と話した。

（鈴木雅人）